

和泉名所圖會

卷之三  
 和泉郡  
 泉南郡

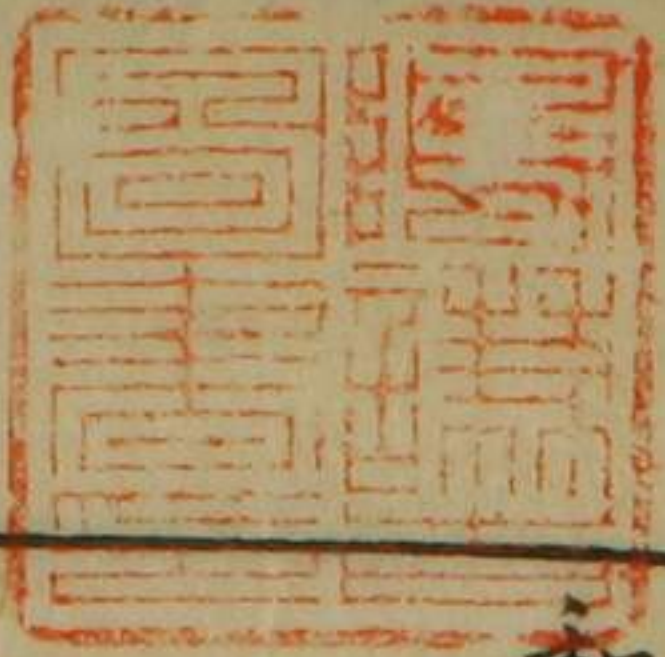
JL 4  
 348  
 3



和泉名所圖會之三之卷目錄

信太社	信太社	上野奈	篠田三子
花利寺	信太社	國府清水	篠田三子
珍勢寺	信太社	平江三子	篠田三子
曾根神社	信太社	大津	篠田三子
南園寺	信太社	少泉寺	篠田三子
東井	信太社	池田	篠田三子
石之尾	信太社	池田	篠田三子
國分寺	信太社	池田	篠田三子
新氣井	信太社	池田	篠田三子
...	...	...	...

凡呂  
第 348  
卷 3



和泉名所圖會二之卷目錄

上林祠	男乃字乃神社	谷山池	霧山	阿弥陀原	赤原井	南濱寺	曾根神社	珍努旧蹟	蔭涼寺	信太社
神春	解氣井	國分寺	石之尾	契冲舊菴	目冢	粟神社	穴師神社	博多神社	兒松	信太社
潮谷	煉井	光明皇后誕生池	幣藩祠	沈田祠	妙泉寺	大津	平松王子	國府清水	上野原	上野原
鳥地獄	左右羅井	巖窟	大池	白山祠	俊奈坊墓	沈田寺	奥津濱	總社	總社	總社
						瑠璃井		八幡宮	八幡宮	八幡宮
								神宮寺	神宮寺	神宮寺
								慈野遙拜所	慈野遙拜所	慈野遙拜所



額泉寺  
 額実家  
 和泉式部旧蹟  
 岡上御堂旧跡

名寿和泉齋  
 名寿編笠  
 西福寺  
 名寿麦塵

同雞卵紙  
 草舞臺  
 岸和田城

何理莫神社  
 慈野祠  
 鏡地藏

天光祠  
 七越峠  
 膳部尾  
 牛瀧威徳寺  
 丹楓名所

泉南郡

横嶽  
 名寿松草  
 松尾寺  
 冬堂  
 行者堂  
 鎮守祠

不動堂  
 父鬼谷  
 唐國村  
 神明  
 水調持堂

鎮尾施福寺  
 卷尾峠  
 法論寺  
 水向寺

積川神社  
 徳棕神社  
 女市塚  
 神放寺

波多神社  
 久米田寺  
 橋諸兄公墳  
 石寶殿

麻福田丸家  
 久米田戰場  
 本積観音  
 水向寺

楠本神社  
 久米田池  
 三好實休塚  
 水向寺

太社



信





志のの  
 くらや  
 左登が  
 網夕

千枝楠  
 狐穴  
 橋の洞



信太杜  
 稲荷洞  
 一名葛葉洞と称は  
 千枝楠



抱朴子曰  
 竹れ  
 のぞけ  
 皮  
 をろひ  
 細石



抱朴子曰  
 狐の毒  
 八百歳二百歳  
 唇れ  
 暫愛  
 人  
 佐田の狐  
 け

和泉郡

東に河州錦部郡及紀伊都郡に至り西に海濱に隣り南に泉部郡

欽明天皇十四年夏五月泉郡茅渚の海中小梵者あり其震響

雷聲の如く光彩見曜と日の光れり天皇おれ瓜異ひ

潜邊直と遣りてやめを海中より樟木の浮出と珍瓏と瓜

をさわけを帝小勅命これとて佛像二軀瓜化し

若也寺小光瓜於河樟の傍あり

海の中より上るとあり

信太大明神

信太郷中村の莊頼森田氏の宅地小あり信太社とて十町許あり

祭神聖神

神系素盞鳴尊の孫大歳之神此神子なり二代實録曰

十二日從五位下聖神小

信太杜

信太郷中村の莊頼森田氏の宅地小あり信太社とて十町許あり

楠大樹

杜中少あり高ハ丈許周リ五丈樹のたさ五尺枝葉

みづく概搦とくく石の形人持は信太神初と鎮座し人新と

紀伊傳旧記さく只は老樹のあり信太社の名世小高し

法拾巻

あごふわけの石とてさうんやとて信太の杜れさ小町と

新古今

さふかり信太のともれなくさふあえぬ末瓜神小のこて

同花

ふもあく信太の杜れ下晴てふ枝の枝さ人とゆる月教

續拾巻

下とれの若とて志とてやえられ志のこもれあ枝の志と若

新拾巻

夕立のふらり夕に來ふ志のこの杜乃ちえれ下

續拾巻

とふやうと志とてあひのたふひか志のこの志れ杜のゆにつけ

経長女

伏見院

大藏卿

内大臣

常盤寺

藤原保季

中納言

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太

信太



新後拾遺

拾遺

新古

海川百首

建保名詠

日

建保百首

和泉式部道貞

新古

日

み枝ふもやうとらひほもをとてなほ志のこれらりの一翫もふ

定家

乃のれ日夕のつらあやうにさしほ志のこのりりれ下ゆけ

定家

日夕のゆけ若ききまされのりある志のこれ杜のちえ乃秋風

後頼

八月の志のこれ杜の時を本つてちえの枝とにみけ

正位知家

かとらにいまもわらいつとある志のありれおこの翫

正位知家

かとらにいまもわらいつとある志のこの杜ふ翫と日向く

正位知家

み枝ふりの佐太の杜れ下病ふあまの末や厚もあま

信正の意

和泉式部道貞ふもをれあはとなく敦道親王のさし

赤深内門

秋風はとうと吹とも葛のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

都て葛のうら秋風の葛れ葉のふみあまのさし

和泉式部

葛れ葉の風ふれこれにうらあまのさし

和泉式部

志これのさしあまのさし

和泉式部

後頼の信太の杜の梅の社権ふ葛の葉明神とそ

和泉式部

葛の葉やむりの葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

神れ灯のあまの葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

あ遠く益敷の咲 狐 糸

湖夕

冬くれや葛のうらあまのさし

和泉式部

葛の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

上野の信太の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

秋風ふ上野のさしあまのさし

和泉式部

篠田王子 有御 櫻 行 為 御使 参 信 太 明 神

和泉式部

少林の蔭 涼 寺 信太の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

兒松の上 堂の側 あり 俗 傳 日 む 奥 州 松 葉 小 児 親 と 討 其 故 也

和泉式部

信太の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

今上野の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

あそれくおろく風ふいつとあまのさし

和泉式部

秋風ふ上野のさしあまのさし

和泉式部

篠田王子 有御 櫻 行 為 御使 参 信 太 明 神

和泉式部

少林の蔭 涼 寺 信太の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

兒松の上 堂の側 あり 俗 傳 日 む 奥 州 松 葉 小 児 親 と 討 其 故 也

和泉式部

信太の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

今上野の葉のこれらうみふもをてとをわら

和泉式部

あそれくおろく風ふいつとあまのさし

和泉式部



國府清水こまのしみづ  
 神功皇后じんこうこうごう三韓退治さんかんたいぢ  
 の後のち武庫ぶこよりあふ  
 至いたりけきき泉いづみ成なり  
 賞しょうりゆりゆふふり  
 和泉いづみの名なををすする  
 ひろひろくく天あまのの時とき  
 ああののいい竟はらのの代しろ  
 夏なつ后ごのの節ふし  
 霊たま泉いづみ成なり  
 さいさいははららふ  
 といといふ  
 ああののいいんんら

國府淺水

府村邑の入口あり和泉郡といふ

神功皇后新羅を征し一歳に浅水一表小浦を故小和泉郡と號

上八幡社のあり或い水内社ともい延喜式神名帳に泉井上神社と

ありけ井梯ありと云ふ水内社ともい味耳く茶の湯小

用い酒を醸さるる佳りたり大正年中秀老公の命よりくさるる

汲ふ大坂の城中小宮といふ入押皇后之韓凱旋の神時小竹宮に

居しゆこれと舊府といふ又元正聖武の二帝もく小竹宮を建

させりこれと珍勢離宮とも和泉宮とも稱はるる古代園司の館よりく

國府といひ又府中といひ和泉式部より支橋道員源順紀貫之菅原

定義等と和泉守小任せられりみまは府中に居り又後を和院

徳地神々の神時建仁元年十月六日平松王子より神馬公傳り歩

り國府の新造神所入神しゆ入神の神を記し是より又源順も

和泉守とて居り伊賀伊勢守小任國をたせ奉らるる

今昔お悟小大江舉周大江匡衡の子官をさる時小母の赤深鷹司後

かくおんよみくまらるる

あり君よりらのおんちをいひさえぬさるるといふを

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

赤深鷹門

珍勢縣主舊趾

國府小ありあり和泉郡の久遠道臣佐藤藤原の御

末社 丹天社一也中あり 神宮寺 惣社の南を町小あり 中堂小あり

八幡宮 本社の本ありむいひ清水の上あり 元正帝若老は年より放生會

神幸して放生會を成す 聖武帝天長十一年夏大旱るれは官幣を

五社及び井上八幡宮を奉る 雨を祈り忽ち大雨り國中大旱るれは

総社 府中村小あり 和泉郡五社 大正元年 信太 権太 大井 権太 依せ奉る 例祭

祭神 神代文照大神 左天忍德耳尊 鳥草尊 不合尊 右瓊杵尊

八幡宮 本社の本ありむいひ清水の上あり 元正帝若老は年より放生會

神幸して放生會を成す 聖武帝天長十一年夏大旱るれは官幣を



府中社  
鳥居花

博多神社 伯耆村ふあり 延喜式内之  
 平松王子 日村ふあり 神幸記日建仁元年十月六日於平松王子  
 正法百首 珠有乱舞沙汰

後鳥羽院

盛衰翎袖中物に出る其文小曰あつたは鎮守社なるの地は鳥居花  
 つくろく子孫を承け抱く外を雄多能く治すべしと云ふ事あり  
 雄多能く治すべしと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 抱き対し合ふも亦ぞと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 改り其位を授けしに依りて人徳を戒めしと云ふ事あり  
 加良酒等伊布於保乎糴等利能去等乎英天等母迹  
 等伊比天佐岐院智伊奴留  
 加良酒等伊布於保乎糴等利能去等乎英天等母迹  
 等伊比天佐岐院智伊奴留

府中の清水



府中惣社



穴師神社  
あしらのくさのやしろ



穴師神社  
あしらのくさのやしろ  
五山  
本  
社  
増  
修  
申  
上

穴師神社  
あしらのくさのやしろ  
本  
社

曾根神社

今延喜式内之系神号福氏の祖神鏡速日命なり

穴師大明神

穴師大明神 延喜式内之系神号穴師神社と書に穴師と

祭神

位吉明神公なる例系八月十五日我孫子七村の氏神なり

末社

多々 延喜式内之系神号穴師神社と書に穴師と

藥師寺

穴師社の所詳有にあり

大津

紀州街道の驛

五日

半下條郷 半八字多莊

大津

紀州街道の驛

五日

半下條郷 半八字多莊

大津

紀州街道の驛

五日

半下條郷 半八字多莊

大津

紀州街道の驛

五日

半下條郷 半八字多莊

大津

大津の地名も

貫之和泉國小竹村なり時又和泉國小竹村なり

君成ありひを川の漢ふく田鶴のふのねををてふさく

志房

大津の地名も

貫之和泉國小竹村なり時又和泉國小竹村なり

君成ありひを川の漢ふく田鶴のふのねををてふさく

志房

大津の地名も

貫之和泉國小竹村なり時又和泉國小竹村なり

君成ありひを川の漢ふく田鶴のふのねををてふさく

志房

大津の地名も

貫之和泉國小竹村なり時又和泉國小竹村なり

君成ありひを川の漢ふく田鶴のふのねををてふさく

志房

大津の地名も

貫之和泉國小竹村なり時又和泉國小竹村なり

君成ありひを川の漢ふく田鶴のふのねををてふさく

志房

南眞寺

下條之津小あり律士真宗法橋明寂の創建といひ斤桐東平正の

粟神社

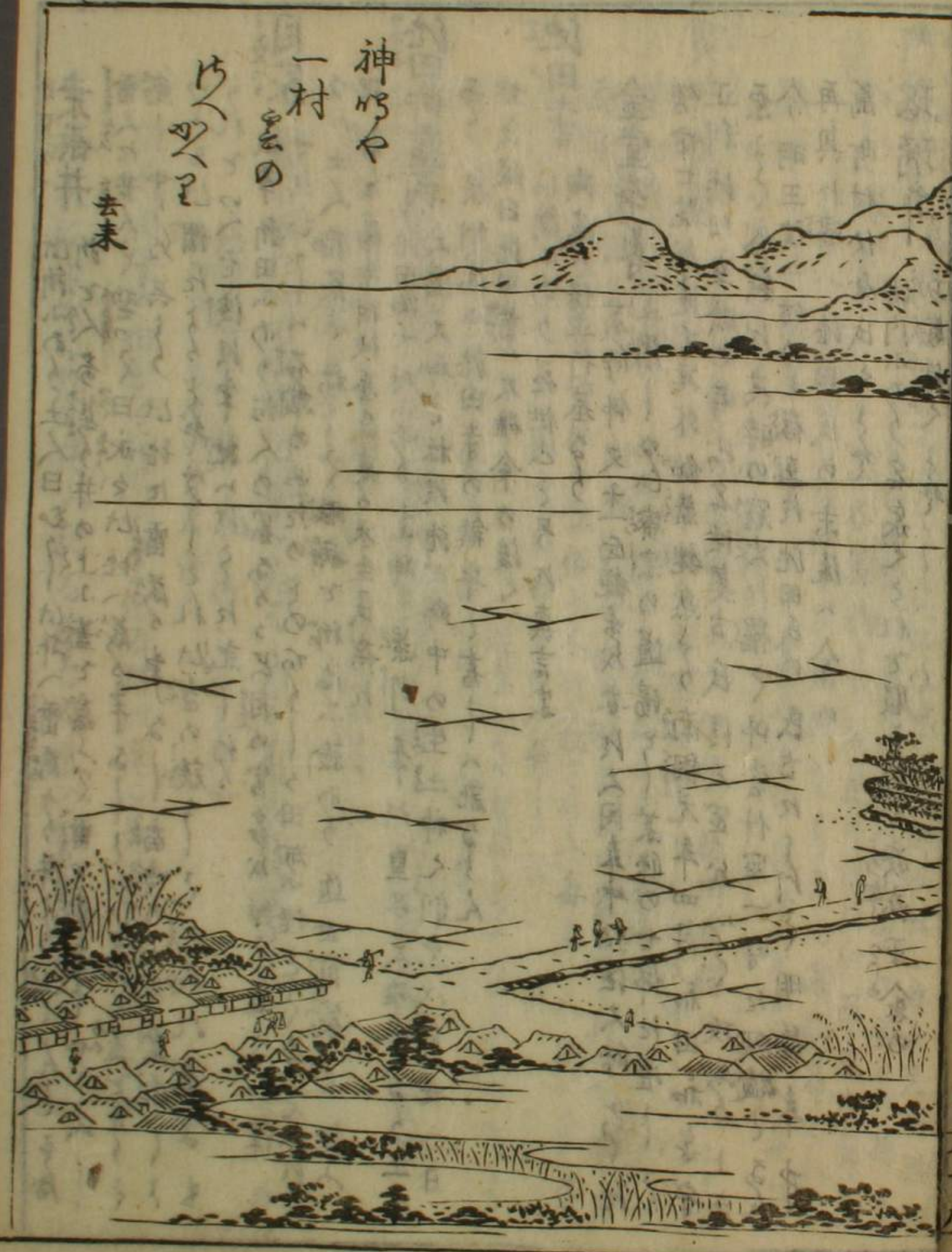
今粟堂といふ

妙泉寺

和氣村小あり日蓮宗又覺之林は曆應二年大覺大僧正此

俊乘坊重源墓

和氣村西福寺といふ墓成統して天下に名を耀し



去来





栗原井 新あり土人曰むい井へ雷落り井より上へんとす

雷人の若んく物つて日永々地地一為る事ありしと蓋とありく

免しやうの雷落りし地に雷落りし地を蓋とありく

目家 坂本新田小あり人の窮あるうと腹の官名公姓氏公伴に

池田御霊祠 池田郷下村あり系神 景仰 孝子 大雄 命 あり土人

池田寺 同基の傍正行基あり 泉州志に池田寺の鎮守と書し北よりん

金堂奉尊 茶師 又十一面觀音安ん大同奉中弘法大師 寺あり

傍坊七院を建て其外伽藍魏然より南朝元年四月 和田 和泉守

正利池田在城の時心名陸奥古氏 信大軍公 政 あり上之

今明王院一坊の存 冠火に罹り仲堂什室一時に灰燼とす

再興に違ふ池田氏の末流ハ今の 明徳 年中

萬町村 伏屋氏とす 瑠璃井 池内小あり名泉とこれと服をれを疾病平念の

阿弥陀原 萬町村の西ふありひり 建治年中池田郷山林小毎衣光明 赫々

せりて 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原 藤原

契沖 舊菴 日村伏屋氏の後園にありは傍へ揚州石橋の産小して

著 泉州志の跋に云く 自新の和奇 叔首伏屋氏の家藏とん 又 家

の抱前にふ配の竹林あり 俗小大竹菘とて 毎年大竹 多く

出るふより門とん 園中の参りやん 池田川の竹より伏屋某り 送りかたり 産かたりて 恒々ふすやん

大竹がほま小産ゆるとのおぼたをてて 契沖 詩の意をうくみ

心もちた竹のみやうれまをたてて 産のふた世ふをむ 全

夕附 夜梅の香ある河風小く 林の竹れ月を待てをば 全

梅花河辺の月にまほふ 秋とふ香の香とや 譽にせん 全

池田川の流解とありりく 梅ありく 梅ありく 梅ありく 梅ありく

池田川の岸に居ると山吹との  
咲のふさふさは多し

山川のさしけ居るにわれもいさふらつらん山吹との花 全

池田川絶涼

夏川のいさ水れ涼しきふらつるをいさふらつらん 全

春のさふ居しとれ川若の梳とくさふらつらん 全

幣垣祠

日村伏屋氏の垣外小あり向天神とも社にいふ一戸あり  
池田御臺の神輿渡河のお落所と池田上村の御田

白土祠

萬所村の生土社と伝は所小風傳山小寺といふあり  
石の尾の代よりありたり石の尾や葦の尾ふくむらり

霧山

萬所村の西ふあり村老云本邑水田成り始りて  
頻に滋し其神土の神名成集家々初法に其所成霧山と

梨本池

池田郷の山内ふあり万所浦田池治屋村の  
用水と伝は池一名慶合と云ふ四百餘坪

谷山池

池田松尾雨莊の前あり慶サ一千二百三十餘畝相傳人  
傍重隆聖前之池須小堂あり菅源の傍成安並れ

國分寺

國分村小あり人福徳寺といふ承和六年五月和泉郡安樂寺成り  
國分寺といふ傳一貞傍十口成と云ふ延喜式曰國分寺科五六束と云

光明皇后誕生地

宮里の麓山に傳はり傳はり傳はり傳はり傳はり傳はり  
上人の小便と掌と腰胎一童子小女成産たり上人は傳はり傳はり

石の尾

萬所村の西ふあり村老云本邑水田成り始りて  
頻に滋し其神土の神名成集家々初法に其所成霧山と

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

巖窟

日村小あり慶サ方丈餘  
十人小容小櫻あり

男乃字の神社二座

牛頭天多々勧誘し今幸社のゆへに下宮村の宗神ハ神武天皇之  
 又日根郡野里に同神ありゆへに延壽寺内ハ  
 解氣井 保井村ハ神武紀五十八年 神日本磐余 彦皇  
 の胎經た的とす所ハ血とほひハ血の海の名ありと  
 古事紀ハ又ハ皇師ハ日本紀ハ出づり又保井村神三  
 の流ハ時官軍ハ横山ハ 是神高島 出逢ハ 宮内造ハ 宗  
 双ハ 諸齋とハ 泉とハ 濯ハ 時ハ 忽平念とハ 和泉志  
 保井 左古邏井 俱小日村

御林神祠

三保村ハあり今幸日神と称レ  
 御林神祠 御林八月十六日

神白

ニヶ所あり一ハ又鬼村一ハ又野村 傍有くこれと寺小ハ  
 衣ミレを其中ハ血あり仍て舊跡ハ移レ 津と半波ハ

潮谷

若同より 潮出内故ハ名小ハ

鳥地獄

福瀬村の泉より 諸香ハ泉と飲レ 則死と云ハ

天光石止別神祠

福瀬村天光也

横嶽

横嶽の東嶽と云ハ又禰形武ハ七越とも云ハ

半尾ハ西園巡礼  
 貴に番の札所之  
 親世者二十身  
 衰して利益を施  
 申入園小より千  
 二年目小開扉あり  
 其時ハ霧波は陽  
 の所及ハ遠近より  
 諸人あくるく  
 け山の権ひる所  
 也





権現

権現



巻尾山  
施福寺  
西園巡礼  
参りま  
札所

権現

まなか  
か  
榎尾  
門  
茶



名存横山炭 横山の莊父鬼村より出る炭道家にこれと賞に河内國

卷尾山仙藥院施福寺 横尾山あり已るハ真言宗近江寛文中より

本尊弥勒佛 文殊 左の脇小安に 十の観者 右の脇に安に長五人

大師堂 弘法大師の安に 卷尾神社 卷尾明神初に鎮座し

如法藏 役小角法華二十八品に分て葛城の家に居

柴平水 不初堂のありあり高山水を引て弘法大師神咒

覺起塔 北より遺言にありて骨のありに蔵む 右祥院舊蹟

遷れ 名存松茸 横尾松茸の二ふより出る味佳く又茶の名あり

四十八瀑二十六洞ありむ 弘法大師沙門勸操にまゝく落髪し

虚空藏求聞持の法を受沙弥の十戒を授て三論を究り横尾山寺

小在く初の名を教悔又如空と改む延暦十四年東大寺の檀小登て

論者又瑞朝の時 平城帝へまゝり 將來上表あり又 後香羽院の

延應年中少く横山の郷を以て灌頂の用途として仁治元年小灌頂堂

と建る人 後深州院に建長二年小別當者大傍正行遍かして結縁の

光俊

右の脇に安に長五人

本堂の成まに

あり

本堂の西

本堂の西

本堂の西

本堂の西

本堂の西

本堂の西

本堂の西

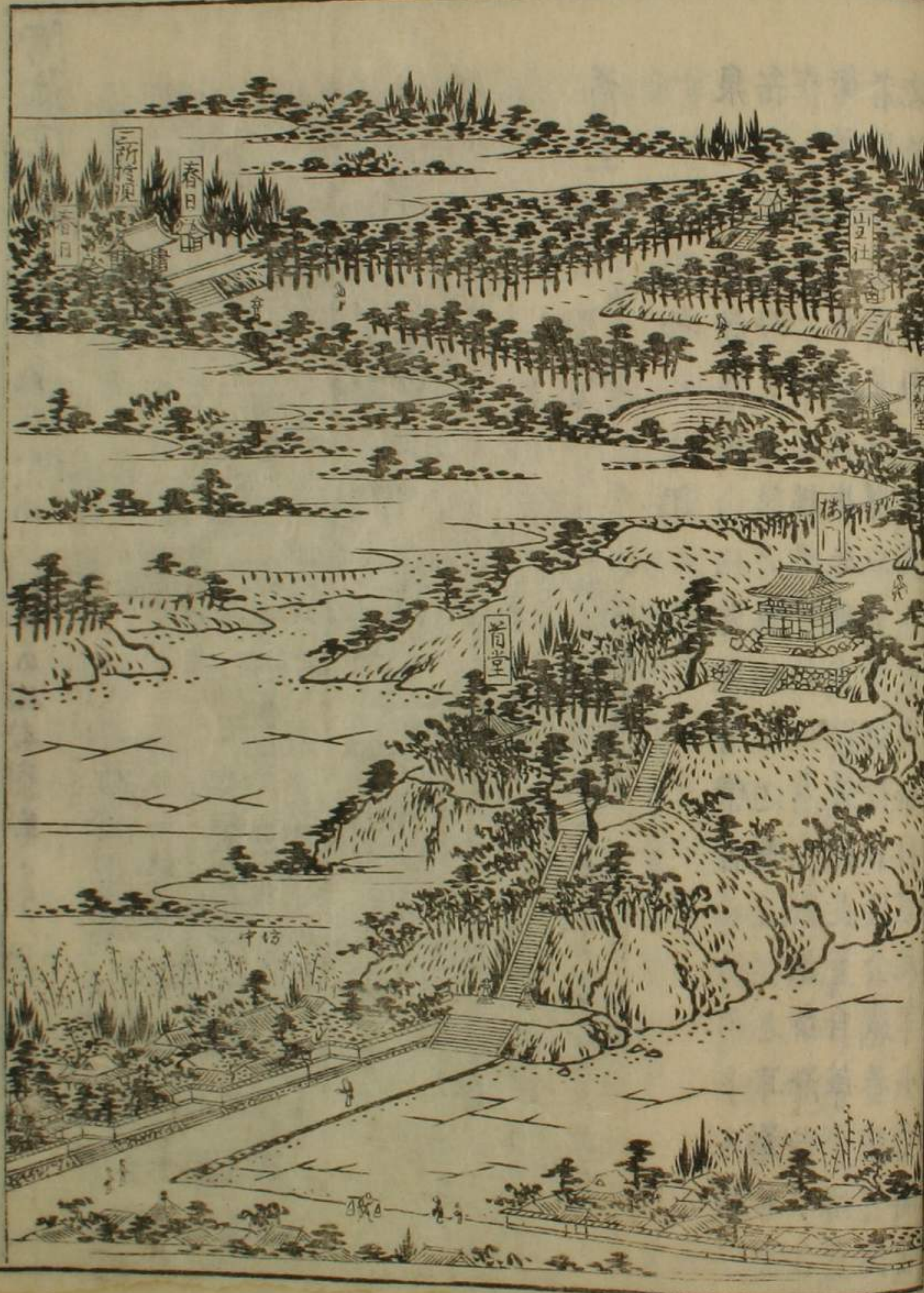
本堂の西

本堂の西

本堂の西

権頂を修し由同二年宣陽門院の神額より万花万燈會を行れ  
其用途して右見の免田を配せし由同門院卷尾寺の兒十一人公伏見  
御所より五雙の童番を勅しむ御見園殿より鷹司女院近衛殿下  
兼經公と正嘉の比し 後保州院神寄附の法義經これ 後白河院考不  
神讀誦の經書に金銅の何字同愛深明王太子様子十躰同若賢像不勅考  
佛舍利三粒宝塔に籠らし置ふに収め今寺庫にあり又弘法大師より  
傳教大師一賜は書州一通考ち小ありる公 聖佛什寶擧る不違ありに  
今坊舎七十字ありて免除の租税終六石あり物ととも山林若干廢入  
して推まを業とて近郷の農家にこれと交易にまの柳の系縁より初花  
向ふに諸國の巡礼連り給して堂を小向ひて縁を公唱へあり坊中  
小窟ありて一山の窟ひく押ひて公國の高ふりて路遠く入して雲  
封一日の歩半 途し和名の方より登ふ小溪川と右ふし左よりと  
道狭くは後ふり河内後へありふ山後細くして峻難石を車に歩り

を悩むがこれと巡礼道と難りの一ツありこれより麓ヶ如と  
り所へゆく大母光の瀧高野山の街道へ山嶺へ別院へ遊ふ来り  
天台ふに比して雲實ふに満る鳥雀なく水聲洶に流るる笙簧  
あつた雲密ありて直に殊勝の寶閣ありて  
父鬼谷 横山莊父鬼村の上ふありふ谷に桃樹多し花の紅く錦繡の  
色あり河内の鬼道と母鬼といふ桃を鬼の窟より植ふや  
巻尾峠 河州錦部の郡界より阪路崎嶇ありて大加下の宮  
園分寺等々を歴く又休より右ふ折る若正寺に至る  
七越峠 種尾ふの奥にあり紀泉河三州の堺へ山嶺小曲路七盤あり父鬼  
峯を經て巻尾に至る山徑險隘してこれに檜奈路といふ  
山あり 月をえりてありふのこのの  
立のゆる月のありて小雲清くむらりわさねるありこれの 西川  
岩中記曰七越寺如法經園加水耳齋水文化也  
北小大陣智慈水あり  
七越の上ふりて小川をのみ程  
七越や思ふ日と夜度歩しこれ  
大坂 悠川 湘夕



松尾の寺





阿弥陀山松尾寺

松尾山あり山中の樹木葱鬱なり

本尊如意輪觀世音菩薩

長久寺

角基役優婆塞

本願ハ用明天皇

累世の天子倫有公賜

勅額寺

授代の將軍

中興ハ誠泰澄

初願所

官稅免除あり

授代の將軍

堂塔如蓋巍巍

遠く慶長七年豊後

郡根津の一に

佛國坊會

田原の健石

松尾の龍ふくむ

左に記す

長老百拙和尚の撰

志あり

三所権現社

本堂の上壇あり

神徳神白

藏王権現

春日四所明神社

三所社の側あり

神護景雲二年

本堂あり

山王社

本堂の左

不初堂

本堂の右

本堂あり

首堂

本堂の側あり

相傳源

我此の時觸

樓門

泉州松尾寺記

泉之松尾教寺彌陀層巒嶂嶂彷彿乎外郭中  
岳蛇々其勢若老龍之偃松尾之稱蓋賴之耳曩者簡  
在道隸干北帝心權輿於役小角中興越泰澄世唱台  
衡圓珍之高弟道譽冰青所辨道於此蓋自尊意始誌  
之流亞神異難側原夫天武帝白鳳元年小角躡履

而始至精修三天合行法至弟三夜感得三天降檀星  
斗焜燿林密乃舉天像以緣契遇也至弟七日墜石自  
嘗瘞五穀於此果獲靈材遂刺如意輪像至安本殿  
空而爛角探光影寶構鼎立且建護法祠喪崇日三  
尋而澄公矣止棲影山王水旱痲禱禱禱禱禱禱禱禱  
所權現而後鎮四所山王兩季禱禱禱禱禱禱禱禱  
茅皆輪與黍奉聖救嚴設兩季禱禱禱禱禱禱禱禱  
藜之林嶽壯規宏模洛陽以南鮮儷元曆初平氏族論  
攝之智谷源頼朝使弟範賴義經倚角以攻城經有信  
艾乃載首級三大艦送葬宇其上不備噫二將亦知周  
麻以岐高邪俗曰首堂後醍醐帝爲平高時所襲  
狩隱岐事平頌帝重祚特救禱大寶垂美賜額於四  
至義持世降帖而絶勝天正中平信長盟主群雄三年  
帖又效足利氏五年立禁愚民入寺勿牧及兵卒  
暴掠其崇敬差倍蓰於舊九年三月遷命寺田松浦兩  
將中兵逐僧放火佛閣亡有子遺准其首堂者蓋末  
然冒矢石遜去若宗祖法器歷朝宸翰等尚存者蓋末  
之劫也微瑜王石俱焚瑜時八十一寒慄嗟乎瑜實疾  
遇劫草與如信長志氣令人想象以寒慄嗟乎瑜實疾  
氏後無略延曆寺焚蕩殆盡寺隸干延曆令免租稅及  
也與秀頼再造瓦礫發光復舊觀而較之往昔之地

圖千礎萬極猶如文軒與淑興也速乎  
東照不亦君君是茲闔山衆商議而後  
洛訪不亦君君是茲闔山衆商議而後  
之於人如泰通舍是吾明准如於天正  
當於龍門也其君爲之殿使閣覽見微  
所代以龍門也其君爲之殿使閣覽見微  
首又謂通利之令敬之遇百代之實夫  
莫然將甚於今日爾爲之何如通謀之  
與廢數焉耳於今日爾爲之何如通謀之  
覺爲如藍耳於今日爾爲之何如通謀之  
而一認荃得魚假不岸則一文何廢嘗  
如眩俗眼可里君子乃不取或雖傳於  
余何媿其通曰可擢其舉廢乎足通者  
臣老媿其通曰可擢其舉廢乎足通者  
筆爲拾遺柳巷稱夕翁與契於方外久矣  
地蔡清選明權現神熊野白山金剛藏王  
三所所權現神熊野白山金剛藏王乃泰  
四所所權現神熊野白山金剛藏王乃泰  
州清選明權現神熊野白山金剛藏王乃泰  
蔡清選明權現神熊野白山金剛藏王乃泰

山王推現白河院養保三年春有瑞請神建廟蓋  
以圓宗鎮護也  
往生峰今泰澄師造官寺字奉請神靈畢告衆曰吾  
功竣矣今當生干淨國輒自松樹上飛往西方矣古  
松見在峰之與松皆以生呼焉  
如養勝仙住蘿洞誦法華行基菩薩自穿青巖出阿  
伽水及賴朝源公藏經王於山中等共載千舊記靈  
蹟亦存而事涉繁燕故略述其要係之記尾以備後  
時之考覽云  
享保十六年龍集辛亥小春前佛國沙門百拙元養撰并書

膳部尾 松尾山小あり右の記に云くいみしき膳部の居地は姓氏録曰  
冬堂 弘法大師一を安居の地とす  
唐園村 日初に蘇園氏の居地と云く姓氏録云く和泉國蘇園連の宋女の臣此  
膳法論寺 今澤村小あり  
閑基後小角 峯中記 大澤轉法輪寺小平紙井滝穴高坐石  
行道石 大黒窟等の名區あり云

牛瀧丹楓見



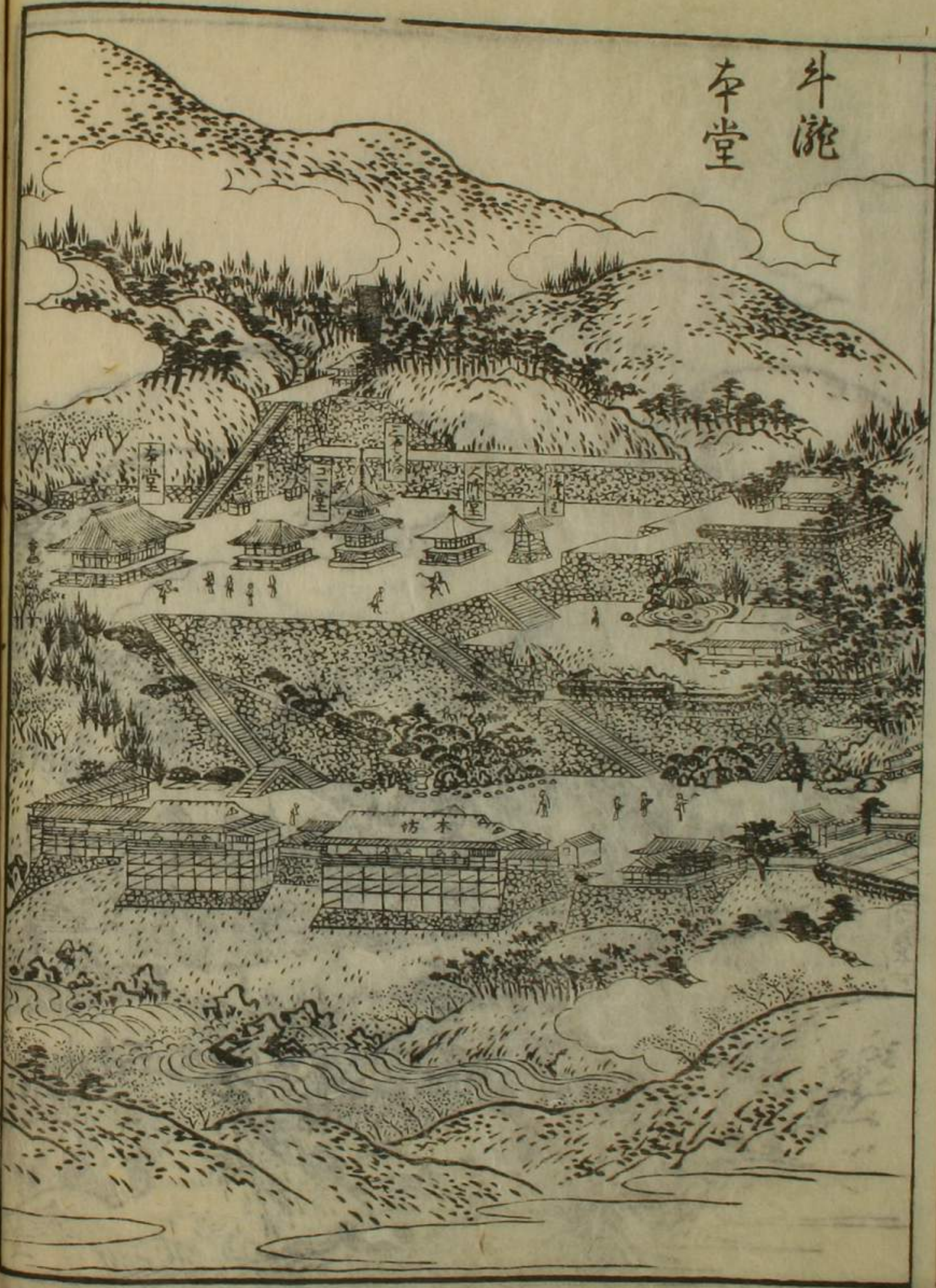
新古今  
 万葉集  
 巻之七  
 丹楓の  
 見  
 牛瀧  
 中納言  
 公任





斗籠山  
大威徳寺  
坊中





牛瀧之大威徳寺

牛瀧莊あり石蔵五山といふ俗舎四十宇あり

本尊大威徳明王

佛殿に安んず不動尊の他阿彌陀佛 弘法の他 脇侍に安んず

役行者堂

自他の多宝塔 金剛界之月輪 求闍持堂 虚空蔵に安んず 弘法の他

鎮守社

役行者勸修 較子大黒社 勸修 大照を神社 大所堂の傍にあり

大所堂

弘法大師の御影 鐘堂 大所堂の傍にあり 劇伽丹 平堂の傍にあり

まごころ後優婆塞開創しんん殿后弘法大師惠亮和尚も經歷しんん

中興しんんいみしんん石蔵五山といふく時法論の嶺ありんん高坐石

ありて是佛の觀坐しんん初後行者ありんん本尊の二の瀧の上小修鍊し

不動尊の彫刻してこれと安んず今之明王堂ありり者七寶に

巖窟に収くし鎮しんん窟の中香冥ふしんん烈風多し故に風穴

といふ深き二十町許 昔日 聖武帝の時天下大旱旱に

帝これと告しんん風城の坤の隅小瀑布あり雲霧共く人干

瀰漫に雨ぬかの地に禱せり則驗ありんん是勅使にんん

雨と禱しんん須臾にして沛然と雨下す 帝大歡喜悦しんん

遣し瀧の上く若樂を奏し賽ありんん若樂といふは時六十六州も

亦田園をひんん小方ち入は六十六段田と號しんんこれより飛泉を尊く

巖を瀧といふ從雨已来毎歲六月十六日大般若を講讀しんん五穀

豐熟を祈り旱魃を救ふに求闍持堂及び兩層塔あり弘法大師の

起る所の巖の大きき坊惠亮和尚に奉り大威徳の法に依りて時

大威徳尊を二の瀧より涌出する人騎の所の牛の潭心の対石に奉り

石の長四丈瀑布これと授んと花流は恰牛の水より濯り出は

如しり惠亮感喜瞻仰し七乃大日岩の脰の石上小坐して一刀之禮し

大威徳尊の像を送る今の本尊を奉り至此巖を瀧を牛瀧と

いふ第一の瀧は高廿二丈第二の瀧は高廿丈第三の瀧は高廿丈は

飛泉の水源小四十八瀧あり曲折流は高山中に異迹多し且一に

楓多し秋の末小紅錦と布が如し葉をり雲をく紅葉をりぬ折る

あし坊中の書院に映して夜に諸器まゝ紅と懽々ぬ一最  
赤絶の壯觀之騷人墨客く々に到るんをのぞくべ

泉州南極有山曰牛瀧老松古檜陰森接翠蔚蔚清微  
其可觀矣絶頂有石狀如青牛從石罅出乳水霏々  
焉猶雪之飄空蓋牛瀧之稱其斯之謂歟昔者役行者  
開葛城山每逢險難之虞設修密壇此山亦其一教也  
正殿安大威德明王像六面六臂駕青牛亦其法  
信又奉彌陀佛下三尊首久之乃成威怒殊絶闡提生  
以彌陀佛示迹也因名曰寺於大威德相傳之中至是  
清和天皇登極詔亮降魔開護摩壇修威德明王之  
鎮護青牛現空詔亮降魔開護摩壇修威德明王之  
應命一博國使入山威儀得此瀧頭啓道場無不其  
日雨淋一國於葛城中立二十八峰堂開法華二弘法  
後未好事者於葛城中立二十八峰堂開法華二弘法  
品今此最高當法師品又求聞持堂開法華二弘法  
大師堂最合三餘半瑜伽者本坊主寺事半弘法  
台宗稱穀屋而化諸方近末有牛瀧紅葉之名遊干  
月間貴賤齋糧入山綿々不斷偶與二子過遊干  
此靈蹤且幽勝入山綿々不斷偶與二子過遊干  
書如斯且幽勝入山綿々不斷偶與二子過遊干  
泉州南極有名道場境稱清絶地ト吉祥

役公權化威德明王清和所瀧列敷十坊  
彌怒形體可敬可惶慈悲而相能端能莊  
降天魔外澤擁護今尚秋峰翻錦人自諸方  
早恩日布靈跡增彰誰不歸仰我故讚揚  
神堅寺古地久長紫野大心統頭陀操觚干  
寶永元年佛成道後三日  
泉州界蓮華堂

牡丹の丹根を寫雄通文も考らば一て谷の低も蒙の高をも  
紅もさうなま一其れなわの中ううこの瀧あんくふおちく  
牛石さうそさみくあのおつうく頼ふ漆る紅葉をけ外の脊に  
散りさううく錦の褥と着らぬ一あらん溪の早さ瀬に流れ  
あらん巖の肩ふ赤止るもあり散うさう坊舎の書院厨をくみる  
紅うく人の顔も赤た面は被らぬ一楚岸其れもくれも  
ほさうとをおりる人

若ぬさうさても覺へばお景このトてらんれ入おのる  
若照院宮元瑞法親王九十一歳

郡南泉

牛馬のあまふそりうりうふ 林五宮元秀法師親王  
時自せし山流のそれをわらうる 武平公長卿  
山高きうけりのみちふとのうりも 武若小沙實薩卿  
りてさくともみちふ分る秋もあふふ 武若小沙實薩卿  
そくふのこころをさくさくさく 烏丸光業卿  
今もそれ車なかちて牛馬のともみちのそや 武若小沙實薩卿  
深くけてさるや錦もそれをふお 高橋季重卿  
けてふのときくてもまむも 武若小沙實薩卿  
あつめした風のりも小織くけてお 武若小沙實薩卿  
そそりてまきさるあまふ 武若小沙實薩卿  
おまそる牛馬のまふ遠くま井小織くけて  
やむこるたさ方たそのとまけりうたれ

小車母はふそりうりうふをさくさくさく 武若小沙實薩卿  
流ふ乃本々此紅葉を 武若小沙實薩卿

谷家もつらに紅葉乃入日の子 武若小沙實薩卿

俳誌 梅盛 似雲 塘雨

紅葉見て年々流るる酒を去ぬれば 武若小沙實薩卿  
泉南郡 東紀州那賀郡と流るる海流  
南向日根郡 北和泉郡

積川神社五座 積川村小あり延喜式内之 徳和帝弘仁十四年七月初雨  
の奉幣使ふまふ 二代實孫日 徳和帝貞觀六年二月

波多神社 内相村小あり延喜式内之 今牛頭天王を修まふ  
神宮さ朝日と長光寺といふ

麻福田齋家地 福業村小あり延喜式内之 智光法師の巻名は時い  
其内なる貧窮の民あり其子公麻福田丸といふ富家の女を娶て頼ひ  
たりふ母とれと婚すといふ密に同いふ子をさくさくさくさく

母子及へるまふ密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
やまふまふ密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿

密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿  
密に同いふ子をさくさくさくさく 武若小沙實薩卿



一帯して一帯の和命と稱し中へ非り其の若身へとも  
蘇福田加修行企出之藤袴其斤視遠彼我曾縫天喜

楠本神社

包辺村小あり延喜式内あり  
今之神と称れ

龍岡之久米田寺

久米田寺村小あり真言古義又清光院と称れ  
其基南基四十九院の中

左尊

中尊釋迦伴友文殊右尊賢  
聖武帝除厄の存し作せり

不動堂

本堂の左  
小あり 觀若堂  
平堂の左

上壇の地

岡上堂

同 二石塔 尚さの南小あり  
龍山禪定の墳墓と

聖武天皇

光明皇后

清光院一園の令珠万民の依怙也堅牢地神災斗に現く塊と申日  
月星居白人示して堤と周り大聖老人の誓峰海會の土と運びてまに  
築た若哉童子の清涼の境と荷とこれ小加ふと一々の聖主勅詔  
功致致一光明皇后勝れて力と加ふ遠去神龜二年乙丑二月五日始く  
寶光と堀入平十年戊寅孟秋と功成願と満畢ぬ五間四面乃堂  
一字釋迦若賢文殊の像安ん信婆一基捲樓修藏僧房二字

餘房二十字の常住僧の坊あり爰小親父高志定知貧道と奉向ん

經く加吏小達一敷兆定り四至に所謂東に角川の流れ妻本

峰谷小上津川の東家七層塔と限る南に葛木榎等限る西に松村

の登治谷小延年が峯又坂の切上と限り北に徳也治の大道と限り

四至の内田島地利が養く佛聖の燈油住僧の依怙とて一と 中界

瑞源の津業志に故小水田二百町山林十町と公け寶光小修理

公加よけ法水利益に修るの氏に流の餘水小懸る案かるる法

力の験と休ん又命じて同く龍葩の曉に及んて欲に遮く將來末代の

違乱公傳止ん為記録とる所如件一太平十年戊寅十二月十八日云云

滿寺什寶小後高倉院の院宣大徳院の令旨楠正成の係る新田義貞の  
足利尊氏同直義の才大伴隆真の才直の才仁本細川の才楠正儀  
の才鹿園虎の才内禪余の勸進此其外  
將軍家古登者教通あり

久米田池

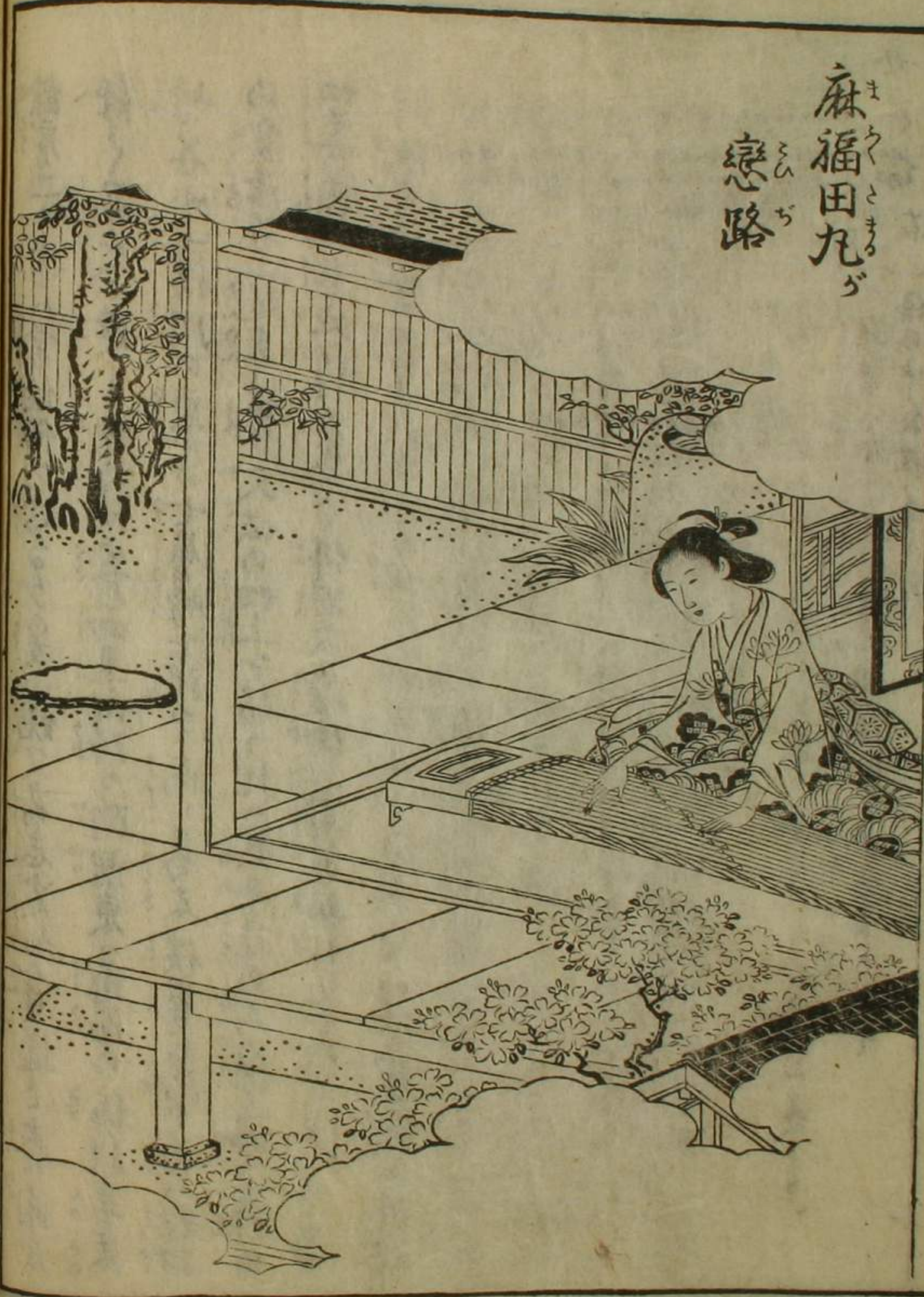
久米田寺の門小あり大傍に基の鑿ゆん右の記に及んる

女帝塚

旧記に高寺小ありといふ光明皇后の廟塔なりとを  
右三塔の中を詳るるに



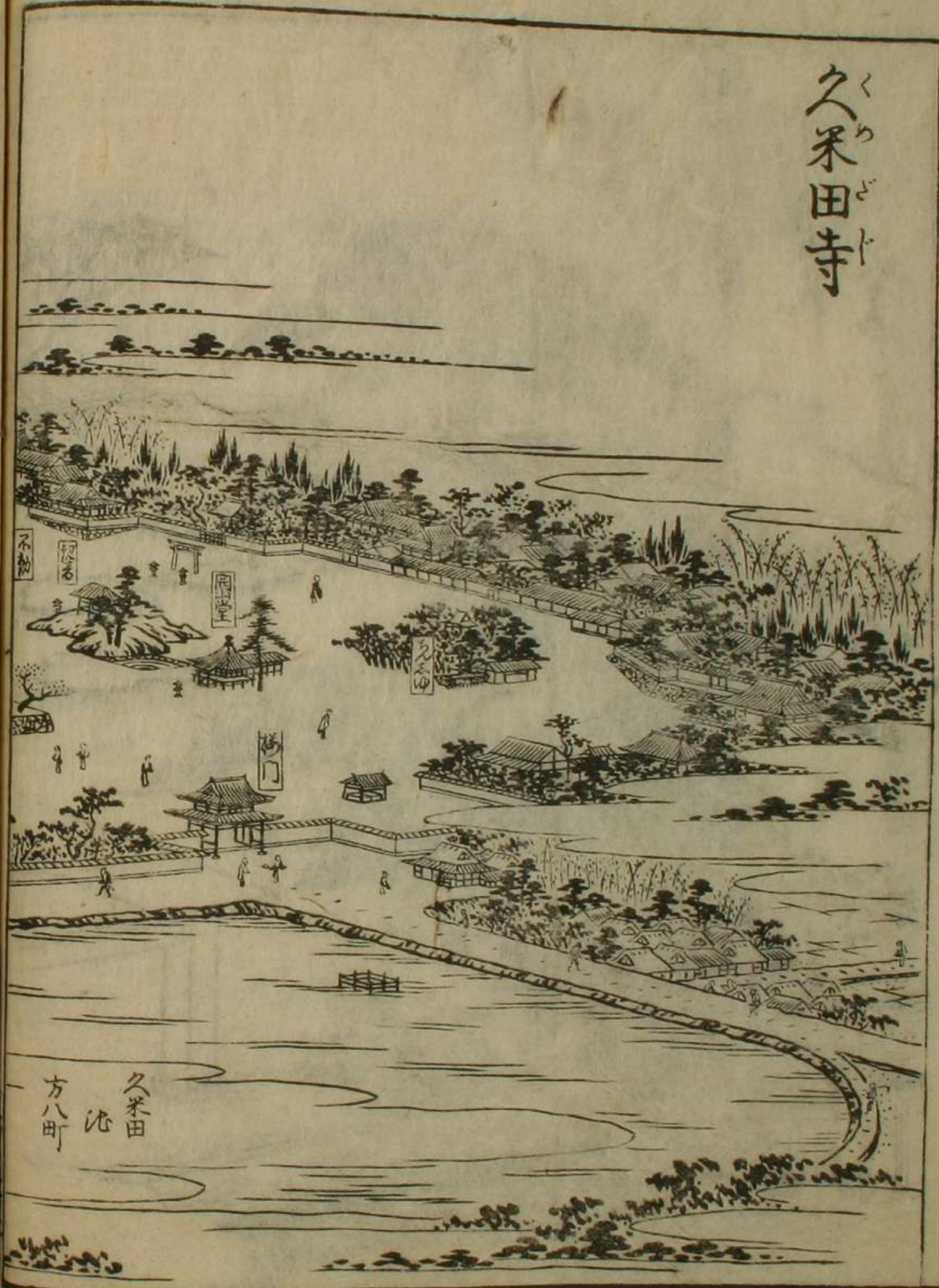
拾を  
哀つも  
夕ふい  
宵あん  
玉うけ  
わをんり  
いそ  
人まろ



麻ま福ふ田た丸まる  
戀こ路ろ



久米田寺



橋諸兄公墳

久米田の西を町小あり旧記云諸兄公の墓は橋那之故子  
勝宝元年己丑二月丁酉入寂之諸兄公は按説非之墓は六月  
薨去之墓と云ふは切基の諸兄公は九年先達して死去  
久米田戰場 永祿二年二月畠山紀任高政根来の地士法師公  
騎兵率一久米田に陣を布く教目畠山小對戦あり夜實休養に  
和奇一首を傳たり

久米田戰場

實休養先達王君公裁に命を承りて凶害とては期加加  
因果は云ふは車輪の外にありて遠きも遠きも死に  
實休養先達王君公裁に命を承りて凶害とては期加加

二好實休墳

額系村の東小あり曾孫二好篤慶  
延喜式内和泉郡 佛殿 本寺より觀者左文殊  
意賀義の神社を

布引山神社

神宮さなり御祭十月八日  
延喜式内和泉郡 佛殿 本寺より觀者左文殊  
意賀義の神社を

寶持権現

山上にあり寺説小曰百餘戸あり  
延喜式内和泉郡 佛殿 本寺より觀者左文殊  
意賀義の神社を

向基役行者

中興の百餘戸あり  
延喜式内和泉郡 佛殿 本寺より觀者左文殊  
意賀義の神社を

石寶殿

葛城山にあり十町許にあり  
孝中記云葛城山にあり十町許にあり  
孝中記云葛城山にあり十町許にあり

本積觀者

本積村のあり行基菩薩像内小四十九院  
本積村のあり行基菩薩像内小四十九院

龍谷山水間寺

水間村のあり水間川の水源にあり  
水間村のあり水間川の水源にあり

本尊正觀者

赤梅燈籠にあり天竺文殊菩薩像あり  
赤梅燈籠にあり天竺文殊菩薩像あり

官社

鎮座王 存財天祠 同  
鎮座王 存財天祠 同

水間龍水間の上 瓜切不劫水間の下 多宝塔本堂の若小あり 延喜式内  
茶師堂南上壇の 護摩堂川の側 廊下橋本堂の南  
名木椿水間の桂の本立優しく色紫  
一瀧の瀧へ飛入瀧の那

園山御堂旧蹟

久米田の東新に家村小あり文龜二年の比山直郷小祐善願了  
九代實公上人高園下向の地小法門小入る者猶麻の如し其時の  
古跡今今成蹟といふに園山の地小和泉郡の地也  
永正二年の夏再ひ下向の門と聖徳太子真徳の門跡院神宮本尊と  
高政三好孫おち孫賢と對降三好方利を以て園山に歸り  
追ひつゝ焼討せんとす大に放ちたれを其時中堂及燼とをり  
多々其後之の如く再建成就したり其後十一代願止上人又石に  
蓋城し中一山に天正八年八月山直郷士寺田又右衛門松浦安太丈と  
りとの信長の旗下に屬して日蓮の宗徒公也といひ焼討し  
りて園山の御堂廢絶と成礎石の遺るを後今も田城内小あり

名産和泉配

園山講と  
直郷村に家村より出庭訓住小和泉配とあり建長二年  
和泉郡和泉配の記曰和泉園和泉郡御配莊より配公貢と云云

雞卵紙

和泉郡和泉配の記曰和泉園和泉郡御配莊より配公貢と云云

和泉式部旧蹟

上松村小あり俗に式部塚といふ園の内和泉式部乃  
色に至りては式部楊枝の法水鏡石水壺と云ふ名あり  
式部の上東門院の侍女和泉式部遺傳の妻と故に和泉式部といふ  
其後遺傳小捨りて藤原保昌小塚に貴布祿の社に堂の和泉  
神堂園白通り中一の奇代々の勅撰に多し其れとも和泉  
園小多し新考く見れば後人和泉の名小よりいへる  
法に不審し式部は老後誠心寺に籠りて死とあり後を遺らば  
冷後地の系師上京小川より今京極寺町小和泉式部乃墳  
形瑞梅の秀春公の命により上京より今の地へ遷る所と高園の  
和泉式部の名流といふもの

名産編笠

和泉郡和泉配の記曰和泉園和泉郡御配莊より配公貢と云云

草舞臺

和泉郡和泉配の記曰和泉園和泉郡御配莊より配公貢と云云

慈母社

和泉郡和泉配の記曰和泉園和泉郡御配莊より配公貢と云云

神於寺

室勝権現

本堂

坊中

坊中



水間寺



額突塚 本村小あり何人の塚と云ふは海邊にありて其の形は額突の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

西福寺 本村小あり津土宗村の東南に古墳あり相傳高寺といふ塚主は上人胎内小なり其母死に鎌倉に隠れ居りて其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

岸和田城 本村小あり其村あり正慶二年楠正成に攝河泉三州を賜ふ其時和泉新三市高家に當國を與へく和泉守と号し高家なり和泉新三市高家に當國を與へく

地蔵 本村小あり寺記曰高寺の地蔵堂あり其の形は地蔵の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

金涼山願泉寺 本村小あり真教院ト半と號す其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

本尊阿彌陀佛 七高祖等の形を安んず其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

當寺のひり傍正行基内小四十九院と云ふ其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り

佛堂の形は佛堂の如し其の土は白く其の草は青く其の石は赤く其の木は黒く其の水は濁り



天和園天性寺  
世小箱地藏といふ

はしあ小解毒丸の  
茶店多しは所  
の名産といふ又  
助松村は根本  
とあり



其の  
多し



岸和田  
天性寺の  
地藏さま  
むつ海中  
よりおぼず  
おぼく出現  
しぬせ小  
指地藏と  
今も







贈鮮魚

頭如上人當云  
 移位一〇八附  
 替氣成晴らん  
 るり海濱成  
 遊苑一〇八  
 具時漢又昔  
 鮮魚と採ぐ  
 け例今小波  
 毎春秋の  
 貝塚浦の漁人  
 第一の獲物  
 尚ふり系昨  
 兩平願寺  
 贈進と  
 〇八

在任の時堂下の池中小波の遊苑を世に雙願の遊苑に稱しありと  
 法流借與陸の雙枝の瑞々として人々其心せりは双枝の遊苑今あり  
 本多極上の壯嚴の圖小波より信長威ひて後文正十三年願如  
 上人攝別天満に遷りて初當寺はト半不附屬一〇八寺式に  
 上人在任の時とて多々初當寺はト半不附屬一〇八寺式に  
 於て舊式小波半不附屬一〇八寺式に  
 霜月の被恩諸人自他宗群とふ一貝塚町と小波を併ぐ  
 のめ

名産水粉 干鱧  
 貝塚ト半より所古例として毎歲  
 関東へ献し奉る

和泉名新圖會卷之二

